（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十五年五月二日　常磐毎日新聞　〔木曜日〕　第四千七百七十四號・【一】

常磐毎日新聞

日刊

五月一日

常磐毎日新聞社

常磐毎日印刷株式會社

平税務署へ締切迄に
約八割の申告
不眠不休活動の結實
調査員會の議に附して
納期は本年に限り八月

既報いよ／＼今一日より實施の新税法に對する所得税及び營業純益税の申告は昨三十日を以て締切つたが税務署當局が不眠不休となつて座談會やら講演會を催し、大衆の理解に努めた結果平税務署は締切までに約八割の申告があり殘りは郵便に依る申告を待つのみとなつたこれに關し川鍋署長は語る今度の新税法は扶養家族生命保險の控除申請があり、從來の營業税が四百圓以下も課税されてゐたものが新税では四百圓以上になつたことや勤勞所得の乙種に屬するものなど出來るだけ、申告者に理解して頂くやう普及宣傳につとめました不申請者に對しては罰則はありませんが、扶養家族生命保險料等の控除特典がなくなる譯です、この通知書は五月三十日より一週間所得調査員會を開き決定の上通知書が皆さんの机上に行くのです本年に限り納期は八月となります

共販會社が實現
明朗石炭配給網
規格統一と闇を一掃
ボロイ儲け完全に釘

混亂せる石炭界を粛正し配給の圓滑をはかるため六月一日設立、十月一日から開業する全國石炭共販配給會社の出張所が平市に設けられることになつたが平地方は常磐石炭の設販地だけに規格の統一と闇一掃による明朗石炭配給網が確立されるものと大いに歡迎されてゐる

この新國策會社は全石炭に産地別標準價格を設け主産地石炭販賣業者によつて組織された地方單位の販賣會社にプール標準價格で即販賣地方販賣會社はこれに手數料を加へた値段で小賣する仕組になつてをり右實施の曉は闇でボロイ儲けをしてゐた中小炭礦は完全に釘を刺される譯である

規格嚴守を
警察側が嚴達

既報平署管内石炭品位向上講習會は三十日午後一時から同署會議室で開催されたが出席者は石炭業者其他約二百名先づ縣經濟保安課橋本次席から石炭品位取締規則の内容説明あり常磐炭は熱量三千五百カロリー灰分四十パーセント以上の規格を嚴守されたい、若しボタ炭やヅリ炭を混入して暴利を貪らうとした場合は假借なく取締る旨を強調四時過ぎ散會した

半島人坑夫協力
豫期以上の成果
社會局長が狀況視察

常磐炭山の増産原動力となつて活躍中の半島人同胞は今や物凄い數にのぼり、内地人坑夫と協力して豫期以上の成果を擧げ日本一の模範鑛區を形成してゐるが厚生省社會局長新井善太郎はこの程井上縣社會課長の案内で半島人坑夫の勞働狀況を視察した

勿來の賭博

勿來町字酒井賭博前科六犯小坂巳之吉(三〇)は二十九日夜左記六名を自宅に引入れ花札賭博を開張したこと發覺、今一日植田署に檢擧された

勿來町前科二犯山本清一郎(五〇)同町朴田一郎(三九)遠藤政雄(三七)吉田次郎(三八)武田藤一郎(三九)茨城縣多賀郡關本村高山文吉(四三)

無言の凱旋

既報前線で散華した四倉町新町出身陸軍歩兵伍長楢原乘松、同町本町出身歩兵上等兵鈴木惣太郎君兩勇士の遺骨は來る五日午後一時四分四倉驛着で無言の凱旋をする

天氣豫報
今晩は北西風
明日も北西の晴一時曇

平工業校
教授囑託

既報新設平工業學校は校長事務取扱立花幸吉氏が職員詮衡中であつたが三十日次の七氏が教授囑託となつた、何れも正式に教諭となる見込みである

山崎宣吉
平商教諭　菅原勉
磐城高女教諭　金子堅一
平第一校訓導　中山正夫
磐中教諭　吉田泰雄
同　豊口欽哉
相中教諭　小野峰夫

結核の撲滅と
乳幼兒の愛護
今一日から十日間
平署　健康週間宣傳

既報今一日から十日間はいよ／＼健康週間だ、平署衛生課では結核の撲滅乳幼兒を守れ、姙産婦を保護しませう等各種の運動を行ふが週間中の實踐事項次の通り

▲結核豫防撲滅、工場鑛山、學校會その他團體は集團檢診を行ふこと、結核患者の家族はこの機會に必ず健康診斷を受くること、規則正しく早起早寢、日光に當ること、毎日ラヂオ體操、戸外運動を行ふこと、ムシ齒は早く治療

▲母性乳幼兒の體力向上、乳幼兒の診斷は時々受けること姙産婦は榮養に注意し迷信に囚はれないこと、離乳時の榮養知識を涵養本年度の乳幼兒檢診は必ず受けよ

弓道大會
小名濱道場

小名濱町では五月五日この程同町自性院境内に新設した弓道場の落成式をかね石城弓道大會を催す由

大陸の母
折之内さん

滿蒙開拓の戰士、青少年義勇軍の母となり姉となつて大陸で活躍する女子指導員に地方から平市下平窪折之内ひでさんが選ばれた、折之内さんは同じく縣から選抜の外三名の指導員と五月十日まで東京聖和學苑に入所する

日曹の郷軍　赤井

赤井村の日曹赤井、常磐兩炭礦、窯業の三社が一丸となり「帝國在郷軍人會赤井日曹分會」を組織しこの程發會式を擧行した

北海を目指す
百卅餘の漁船
勇躍して出動準備

磐城各濱の機船底曳網漁はいよ／＼打切り十三日からカムチヤツカ方面の鮭、鱒漁業に出動することになり各濱共準備に着手したが遠洋汽船は江名中之作だけで百八艘あり四倉、小名濱方面を合すれば百三十餘艘に達する筈である

漁期は五月中旬から八月中旬迄の三ケ月間で昨年は一艘の最高漁獲二萬二千圓を突破して居り今年は高値と大豊漁が見込れてゐるので各濱とも非常に張切つてゐる

理想鄕の
表彰氏名

既報石城郡農會の理想鄕化實行委員大會は三十日午前十時から市公會堂で開催されたが左記中堅農民は優良者として表彰された

△渡邊村水野直記△赤井村矢野恒平△神谷村國井貢△大野村鈴木寅之助△田人村小林寅藏△飯野村[illegible]要太郎

御下賜品を
拜受の光榮
小名濱出身の松本君

海軍五校（砲術、水雷、通信、航海、工機）及び横須賀航空隊本年度卒業式は今一日伏見軍令部總長殿下御臨場の下に横須賀海軍砲術學校で擧行されたが小名濱町出身で昭和十年入團、十四年三等機關兵曹になつた工校高等科機關術練習生松本新太郎君は畏くも御下賜品拜受の光榮に浴した

同君は小名濱町會議員納税組合長等の名譽職をつとめてゐる父房之助(五九)さんと母やす子(五五)さんの三男で小名濱實校學校卒業の秀才である

お茶付
辨當が
いゝ、いゝ、けふからデビュー

既報平驛ではいよ／＼奉公日の今一日から三十錢の辨當を廢し四十五錢のお茶付辨當を發賣した、箱は細長となり飯は七分搗米だが惣菜を吟味し榮養價を高めたものだけに好評を博してゐる

小名濱支局通信

飯塚夫人の厚意に感激
支局長　小野務平
【下】

千代子夫人は本縣二本松舊藩臣の須山家に生れた、そして福島女師出身であるが須山氏は營林署長として各地に轉任し最後は水戸の營林署長たる關係から水戸の小學校に奉職するに至つたものであるが營林署長たる職責は常に深山幽谷を跋渉する歳月が多い關係からなが／＼家庭にありて兩親の慈愛に浴する事が少なかつた、殊に母親は繼母關係であつた爲めにも人知れぬ苦痛を舐む事も亦決して少い譯けではなかつた。

こんな環境に在つても身教育者たる態度に寸分の狂ひなく兩親に對する孝養と異母兄弟姉妹に對する愛護とは致れり盡せりの心盡しで何時も淑徳の令名を讃へられつゝあつた内に飯塚氏との縁談があり共に教育者たる立場に於て良縁として華燭の典を擧ぐるに至つたのである。

飯塚家に嫁いでからも學校に奉職して居つたので夫君に對する貞節は極致に達し一方家庭の主婦として立ち、一方教育者たるの修養にも怠らなかつた、かくて三男二女を擧げ兩三年前まで拾幾年かを教育界に盡瘁されたのであるが愈々退職と共に子女の教養の爲めに一身を不顧ず慈しとして家庭内助の實蹟を擧げて居る事が現在である。

茲に感佩に値するものはサラリーマンたる境遇から恩給生活に這入つたものゝ普通は名遂げ業成つた氣に傚りを生じ何の斯のと諸事にかこつけて有閑マダムたる流れを酌まんとする現在の世相に處して千代子夫人の今日は夫君の爲めには内助と良妻となり三男二女（一男は夭折した）の爲めには賢母となつて家庭の切り盛りに勤勉と儉と約とを以て身自ら奮闘を續けて居る、此の家風は遂に近隣の手本となつて其風を慕ふと云ふ、實にも珍らしき風教となつて居る事は何と奥ゆかしき振舞ではあるまいか。

こうした精神的に生くる千代子夫人は記者の一片の依頼狀に依つて忽ち友誼心の全能力を發揮して電撃的筆法に依つて寄少年の爲めと共鳴されてなるべし、千里を遠しとせずに自ら純農村の庭を捜し當てゝ呉れた程で其熱誠の如何に濃かなるかに感激せざるを得ないのである。

千代子夫人は更に言はるゝ差支ない限りは私共の家庭に居て頂戴しても差支ありません、子供が一人増いたと考へれば何でもないと既にお手許に預つて教養さるゝ事も承引されてある事を知つた時には盲龜の浮木に出遇つたよりも深い感激に打たれたのである。

この厚き親切に滿ちたる飯塚夫妻の家庭に隣りする場所に預け置く事は千鈞の力を得たる次第で荒れ果てた吾人の家庭に置くよりか遙かに仕合せであつた事を思ひ浮べ只管の感謝の念を禁じ得ないので此欄を割き感激の一文を草したのである。

【完】

下小川村
當選村議

既報下小川村の村會議員補欠選擧は三十日執行されたが開票結果は左の如く棄權率は五割弱、無効は三票であつた

當選　一一八票　松本光平
同　一一五票　草野勇
次點　鈴木宗次郎

小名濱町
青年總會

既報小名濱町青年團の總會は今一日七時から同町小學校講堂で開かれたが終つて現代議士田子一民氏の時局講演がある

稚鮎六萬尾放流
一千五百貫東京出荷

植田地方を貫流する鮫川は鮎で有名だが鮫川漁業組合では本月下旬琵琶湖産の稚鮎六萬尾を放魚し三千餘貫を捕魚内一千五百貫を東京に出荷する計畫で目下準備を急いでゐる

磐城水産の躍進
増資して遠洋漁業へ

小名濱町磐城水産工業株式會社では三十日午前十時から同事務所で第十九期營業に關し株主總會を開き十四年度下半期決算を承認更に町營魚市場代行機關としての對應上増資の必要を認め現資本十萬圓を更に二十萬圓を増資して三十萬圓とする事に決定した外遠洋漁業に乘り出すことを附議したが今期利益金四萬八百七十六圓二十七錢は左の通り處分することに異議なく可決午後零時半終了した

五百圓也法定積立金、二萬四千五百圓也諸資産償却、金四千圓也（普通年八分）株主配當金、一萬圓也（特別年二割）同、八百圓也役員賞與、金一千七十六圓二十七錢後期繰越金

分與税の
資料報告

新税法の實施に伴ひ縣税並に市町村税の各條令は全面的な大改正を要求されてをり新税制の根幹をなす分與税は現在の各府縣市町村の財政狀況から見て急速に決定、交付する必要があるので内務省では五月十日まで府縣關係、同二十日まで市町村關係と日を限つて資料報告を求めて來たので縣では五月三日から六日間地方、庶務兩課係官總出動して市町村主任者を督勵し分與税資料を調査することになつたが地方の調査日割は左の如くである

△六日小名濱町△七日平市

運轉手
合格者

四月初旬執行の本縣自動車運轉免許試験の結果はこの程發表されたが地方の合格者左の如くである

△普通免許平荒川久三植田關部徳市△同突地合格平坂本惣四郎、鈴木一郎、植田鈴木八郎

平市人事

回出産

△紺屋町三山村傳作氏二男傳君
△月見町二三小泉五郎氏四男昂四郎君
△田町一三三浦和夫氏長男和義君

回婚姻

△南町二〇大和薫(三三)氏と草野村大字馬目字作之内一四八古市喜美子(二五)さん

回死亡

△中平窪字古館二五藤太郎氏婦藥谷ミカ(四二)さ
△立町九六武氏二女鈴木泰子(三)さん
△胡摩澤一四久助氏母古内ハル(七七)さん
△六人町一一シケさん叔父土屋宇内(七六)氏

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間　童話劇「興亞少年奉公隊」新童話劇場合唱仲よし童謠音樂團編曲並指揮山本雅之
▼後七、三〇　郷土に寄する言葉
▼後七、三〇　國民歌謠
▼後七、四〇　講演「支那經濟建設と通貨問題」井上照雄
▼後八、〇〇　詩吟　諸富一郎
▼後八、二〇　浪花節「脇坂部隊」梅原秀夫

明日の部

▼前九、四五　幼兒の時間（うたのおけいこ）「コヒノボリ」指導竹本ゆたか
▼前一〇、二〇　家庭の時間「家庭と兒童保護」松浦榮
▼前一一、〇〇　小學生の時間（尋四）お話「渡邊華山」奈良島知堂
▼後〇、〇五　ハーモニカ獨奏、本間貫、ギター伴奏中村登世子
▼後三、〇〇　婦人の時間「日光の利用と節約」佐藤正
▼後三、三〇　教師の時間「博物標本の製作に就て」大場宣治
▼後六、〇〇　子供の時間手近かな理科（一）「紙」
▼後六、二五　講演（新京より）訪日宣詔記念日に當りて滿洲國國務院總務長官星野恒樹
▼後七、二〇　郷土に寄する言葉　大矢半次郎
▼後七、三〇　特別講演「軍用保護馬の檢定檢査に就て」鑵田武二郎
▼後八、〇〇　交響曲「大佛開眼」中村淑子、永田絃二郎ほか
▼後八、三〇　時局談話「本年度の農業増産に就て」渡邊忠吾
▼後九、〇〇　義太夫「假名手本忠臣藏」（六段目）「勘平内の段」竹本大隅太夫

社告

東京市中野區川添町四十六番地
川崎文治方（電話架設手續中）
常磐毎日新聞社東京支局
右東京支局開設仕候間此段及謹告候也
常磐毎日新聞社

父千代吉儀永々病氣療養中の處養生不相叶二十九日午前七時死亡致し候に付此段御通知申上候

追而葬儀は五月二日午後三時自宅出棺性源寺に埋葬可致候

昭和十五年四月二十九日
福島縣平市田町
喪主　鈴木信雄
鈴木武雄
小泉伊之介
小井戸庄松
外親戚一同
友人總代　野崎滿藏

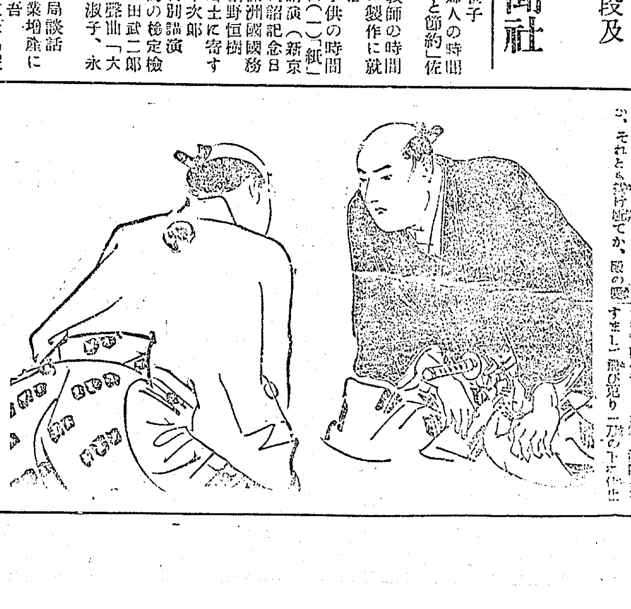
割烹　花村
平市田町　電話四番

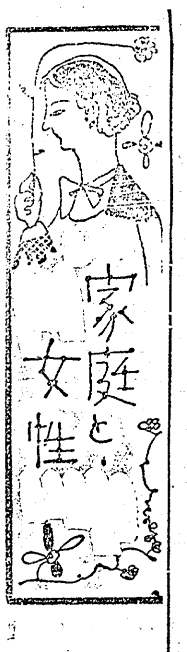
[illegible]勇劍傳

第六十一回
元兇妖婦お雪

[illegible]惡と云ふもの、未だに[illegible]尋ねると云ふ、[illegible]でもないのこゝ[illegible]よく[illegible]てゐると、[illegible]の[illegible]はそれとは[illegible]らず、[illegible]二十[illegible]の水を浴びて[illegible]ります。と今[illegible]は[illegible]へ[illegible]づいて[illegible]合掌させ、[illegible]りと[illegible]始めた。[illegible]々もつて合[illegible]行かずた、民次郎ソーッと雨戸を繰つて[illegible]の上にあつた[illegible]、[illegible]き、遺骨を[illegible]ばせて近附き、木[illegible]から[illegible]子を[illegible]覗くと、水を浴びてゐるのは四[illegible]門の[illegible]生[illegible]を拜し、主「南、八幡[illegible]、現に力を[illegible]妖婦[illegible]を討取らせ給へ」と祈つてゐる。ハッと[illegible]、[illegible]の[illegible]、「フム[illegible]父の[illegible]を[illegible]いて父と共にか、それとも[illegible]てか、[illegible]の[illegible]お雪を討取らんと云ふものと見え[illegible]、倍々[illegible]て[illegible]き[illegible]、猥[illegible]をかけて[illegible]の妨げ[illegible]すは[illegible]って宜しくない」と[illegible]ひましたから、再び[illegible]を忍んで[illegible]へ返り其の[illegible]て了ひました。

翌日起きて主[illegible]と顔を合はしたが何方も云はなければ此方も何んとも云はない。[illegible]々食事も終へて[illegible]門が[illegible]したあとで、民[illegible]「主[illegible]」主「ハイ」民「少し話したい事があるが」主「兄上何でございます」民「卿か他聞を憚る、那方までお出でを願ひたい」主「ハイ」奥へ來ると民「まアお坐んなさい、[illegible]せば[illegible]くであらふが、昨夜[illegible]心の[illegible]を[illegible]つた」主「何んでござる。[illegible]心の[illegible]などとは」民「イヤ[illegible]の爲め妖婦[illegible]を討たんと云ふ、[illegible]次郎[illegible]入つた」主「えッ、では[illegible]昨夜の事を」民「見ました、[illegible]へ參つて[illegible]を[illegible]はうとする[illegible]で貴公が水を浴びて居た。[illegible]かけては[illegible]心の妨げと[illegible]たが[illegible]の[illegible]へ[illegible]つたが道は[illegible]門の一子、[illegible]心いたした」[illegible]になつたとあれば[illegible]げます。昨[illegible]父上の[illegible]承りましたが子として[illegible]んで[illegible]ジッと[illegible]して[illegible]られませう。色々[illegible]いたしましたるに、父上は[illegible]太夫一味の[illegible]を一[illegible]に[illegible]して[illegible]するとの[illegible]せられましたが、[illegible]人が同志を[illegible]ひお[illegible]んとするは、[illegible]妖、[illegible]、[illegible]つて[illegible]を[illegible]しあるお雪のございます。されば[illegible]お雪とこそ[illegible]されを討て[illegible]と云ふもの。[illegible]か[illegible]らせば[illegible]は[illegible]と[illegible]いたす[illegible]、よつてお雪を討たん、決心いたしました」民「[illegible]有[illegible]千萬。して何うしてお雪を討つと云はつしやるか」主「ハイそれには天の[illegible]へと[illegible]しませうか。明[illegible]六つ[illegible]より主君にはお雪をお[illegible]して[illegible]の南にある[illegible]にお[illegible]成ります。[illegible]は十分以上[illegible]ますするに從り、お[illegible]の中[illegible]て御[illegible]へ[illegible]り、[illegible]すまし一飛び見り一刀の下に仕止めんと決心仕まつりました。どうぞ此の事は父上には[illegible]に[illegible]ひます、打明ければ[illegible]められませうから」民「イヤ父上には必ず話しはせん。然しそれは宜しくない。[illegible]時はお雪一人でなくお[illegible]の[illegible]も[illegible]居るであろう。それ[illegible]ず妨げられる。その間にお雪が[illegible]のお[illegible]へでも[illegible]られたらは[illegible]付ける[illegible]には相成るまい、さすれば[illegible]角の苦心も水泡となりて貴公は切[illegible]死に……イヤ貴公は切[illegible]はお[illegible]であろうが、[illegible]で父[illegible]が[illegible]する、それのみか[illegible]共の[illegible]巾にかへつて[illegible]るやうな事になるとも限らん。イヤそれのみか、父上。目的も[illegible]せられぬ事になろう。妖婦を討たんとの志は感心いたしたが其の手段は[illegible]用[illegible]ん」主「お言葉でございますけれど、それより外に妖婦を仕止める[illegible]がございません。[illegible]一存な[illegible]を[illegible]してゐる間に父が[illegible]の日が[illegible]っては子として[illegible]がございません。やれるかやれぬか、[illegible]は天地の[illegible]八幡[illegible]の力に[illegible]って一[illegible]の元にやる[illegible]でございます」民「イヤ[illegible]の力に[illegible]ことは[illegible]たが[illegible]ないが、手[illegible]が間違へば何んにもならない。[illegible]と云ふのではない、此方がお雪を[illegible]げやう」





家庭と女性

…小ばなし…

「これは絹織ですか」「いゝえ特發です」

「スフを全廢する事は出來ないものかね」「なに、みんなして使へば、すぐぼろ〳〵で全廢になるよ」

重工業方面にまで
進出した少女軍
政府で「適正」調べ

最近女子の產業戰線進出が目覺しく、殊に事變以來多數の乙女たちが從來女子には未踏の地であつた重工業方面にも進出してゐるが、彼女達の保護は母性の問題・人的資源擴充の見地から刻下の急務なので、厚生省では種々研究を重ねてゐる。それには職種の向き、不向きを決定することが先決問題なので同省では十五年度職業適性研究實施計畫に、「女子職業適性研究」を全面的に取上げることになつた。同研究は今まで二三の纖維工場で行はれたことはあるが、政府で實施するのは今度が最初で大いに期待されてゐるそこで研究は非常に科學的で四月から着手し、まづ在學女子二千名と女工さん六千名についてそれぞれ專門的な職業檢査と各種の性能檢査を行つたのち、兩者を比較して決定することになつてゐる。生徒に行ふのは一般女子の標準を求めるためであるが、尋常六年・高等二年、高女二年、四年、五年、女子青年學校普通科二年、本科三年の七階層にわたつて實施し、女工さんについては

紡績・金屬・機械器具、造船、紡織等目下就業してゐる紡績工、整經工、捲糸工、織布工、綜絖工、製糸工、染色工、製圖工、檢査試驗工、機械工、旋盤工、ボール盤工、フライス工、鍛壓プレス工、伸線工、研磨工、ネヂ立工仕上工組立工、調整工、旋工、卷線工、配線工、鍛工、電線工の二十七職種にわたつてゐる檢査種目は

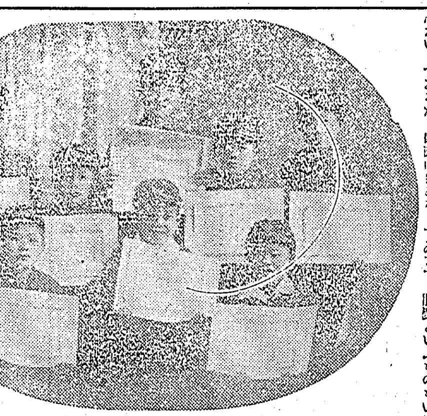
◇…醫學的檢査（身體・聽覺、胸圍・背筋力・握力・肺活量、血壓、脈搏、色盲、視力）

◇…精神檢査（智能注意力、抑揮―手先の器用、ひも掛―金おてつけ、カード分類、型拔き組たての能力、空間別―細い目測、直線目測（同） 直線距離分割（同）重量別、棒挿―手先の器用、挿入―（同）記憶、形態想像―美觀、針金曲―手先の器用せんばん、精密―性格の異常等である十二月までは檢査を完了して結果をまとめた上、十六年度にも同樣の研究をつづけることになつてゐるが、その結果不適當な職種への就業に禁止するとともに職種に應じた保護設備を講じ彼女達の保護に萬全を期する方針である

服裝の心理

キチンとした兒は
勉强もよくできる
身躾みの影響は大きい

新學期です。キチンとした服裝をさせて學校へ行かせませう。ボストン大學教授、ハロルドヴオルフ博士は「服裝のキチンとした學生は成績がよい、キチンとしてゐる學生はどこか自信たつぷりだが服裝がダラシない學生は不安げである」といつてゐます。服裝と心理とは一體どんな關係をもつか。文理大教育相談部後藤嶺男氏のお話です。



アメリカでは教育と環境の關係を實驗し、子供の知能をたしかめるため、子供の家庭（環境）に部屋がいくつあるか、自動車はあるないか、ピアノはどうか、收入はいくらか、着物は幾枚もつなど細かなところまで調査し、その點數によつて環境の程度をはかり、環境を整へることによつて兒童を指導しようとしてゐます。服裝といふものもいはば環境の一種ですが、わが國ではまだ服裝と心理の問題を、そこまで突つ込んでけん究してはゐません。しかし服裝はそれ自身獨立なものですから、自分の身をまもるための道具ではなく、自分できめるものでもないのです。會社の女事務員は制服をきて・職場・である電車にのつてゐる時は多くの人に見られ多くの人と話をしても恥しくないが一旦和服を着て自分の身體になり一人の奥さんになると、ものもいへぬやうな恥しがり屋になるといひます勞働服を着た時は個性（自分）がなくなり、和服を着た時は人柄がさらされ、自分の心をのぞかれてゐるやうな氣がしてはづかしいといふ心理は、服裝が人間を規定してゐる證據です。殊に教室では制服なるものが生徒に要求されてゐますから、その要求に應じた服裝でなければなりません。つまり服裝がキチンとしてゐるか、ダラシないかの問題は、その場の要求に應じて決定しますから要求に應じられぬ服裝の人は、つねに仲間はづれになつて不安なのです。これは葬式のときなどによく見かけられる風景で、葬式がモーニングや喪服を要求してゐる場合、その要求に應じられる人々は一團となつて・自信・たつぷりですが要求に應じられぬ不服裝の人は仲間はづれにされたやうな不安を感じます。日本人の生活は和服と洋服が混じ合つてゐる處から社會的なその場〳〵の要求が非常に複雜なためどういふ服裝をしたらその場の要求に應じられるか、まづ一度は迷はぬ人は少いでせう。しかし服裝の優劣と子供の知能とは直接關係がなく、ただ身だしなみのいゝといふことが、教育上、比較的よい環境にあるといふまでゞすが、一般に服裝がダラシないために感ずる不安やひけ目が深刻になると先生や目上に對する態度にも眞面目さがなくなり向學心や勤勉さが失はれるため、頭がわるくなることを忘れてはいけません。

花と女の美學
若さを存分に生かす様に工夫しませう
造花はかうして御自分で

春のお帽子に、あなたの胸かざりに、お髪に、お手袋のこんな造花は如何でせうか

お帽子かざりの大きな造花は、材料は好みの色のお洋服の殘り布や銘仙の口綿などあり合せのもの、それにしん、細い針金、緑の紙テープ、ノリ、コテなどで、型をとるのがむづかしいとお思ひになつたら、自然をお手本にしてお庭のお花や葉を直接型紙代用になさいませ

あつ紙を利用して作つたものは生花のお高いこの頃は、生花の代りにお部屋をおかざりになるのもよきではありませんか

作り方はどのお花も工作は同じです、まづ花びらにふさはしい布に糊からうすい、やまとのりをひいて乾かしておきます。紙であつたら好みの色をぬつて、うすい布で裏打をしておきます

次にそれを適宜の大きさに切つて、花びら型に裁ちます。大きな花辨は一枚づつ裁ちますが、菊のやうな花辨の多いものは適宜の大きさの四枚分に、元の方を一つにして、五辨に裁ち分て、それを五六枚作つておきます

次に葉はお求めになつてもよろしいが、花辨と同樣にしてじぶんで作られてもよいでせう、葉型に裁つた布の中央の葉脈に細い針金を通し、その裏側をうすい布で裏打しておきます

しんはおもとめになつたものでもよく、二糎×六糎くらひの布に切目をつけてくる〳〵とまいてしんのやうに見えます

布製の花辨にはこてで花の表情を、葉には葉脈をつけ、紙製の花などにはヘラで花の筋をつけ、しごくやうにして表情をつけます

次に花造りにかゝりますが、しんを適當の大きさに麻糸はり金でまとめ、その周圍に花びらを一枚一枚表情をつけながらまとめてゆき最後に葉を取つけて、くきをみどりの紙テープで巻いてきて適當の長さにまとめればよろしいのです

古ゆかたの利用法

古ゆかたはおむつにと相場は決つてゐるやうなものですが、赤ちやんのゐないお家などでこのごろのやうに纖維不足の折、ねかしておくのはもつたいないことです、それに色あせたゆかたを紺一色に染めておきますと地のよいものでしたら男物あわせのうらや、布團うらとけつこう立派に役立ます

産めよ殖せよは先づ
夫婦の體質改造から
次代を思へば正に戰慄

花柳病科專門 醫學士 柴原明先生談

婦人の病氣中最も多いのは何と云つても下の病で小水が近いとか小水の時痛むとか、下腹がはつたり引つゝて痛むとか何とも云へぬいやな氣持がします此の樣な症狀は大部分膀胱がわるいからであります、又下り物がしたり、年中頭痛やめまひがするそうしてのぼせる、月經時に痛む人もあります、これらは内膜炎から來た症狀であります、さてこのやうな膀胱炎や内膜炎はどうして起るかと云ふとその原因に色々ありますがまづ淋病から來る物が一番多い、次に淋病でなく大腸菌其他の細菌から來る物も相當澤山あります、此の淋病は淋菌其他から感染する場合もありますが大部分は男子の古い病氣が全治してゐなかつた爲であつて自分では治つたものと思つて放擲した結果知らぬ間に妻君に感染させて仕舞つたのであります、でありますから前述の容體に思ひ當る方は兎に角其方の手當をして御覽なさい、思ひがけなくサッパリする例が非常に多いのであります專門の醫師に就て治療する事が一番良いのでありますが醫師に見せるのは嫌だと云ふ方は最近治療界に認められ評判になつてゐるゴノモトと云ふ藥を使用して御覽なさい、此の藥は粉末で少しも副作用がなくのみよい藥であります、此の藥を服用すると第一小水が氣持よく澤山出て次第に小水が遠くなり下腹や足腰の引つりいたみも下り物もキレイになります、重い方なら大箱一箱輕い方でも二箱續けて服用すれば快方します、他に色々化學藥もありますが副作用の恐れてのめぬ藥もありますから、無難なゴノモトが良いでせう、此の藥は御婦人によいばかりでなく男にもよく殊に慢性に最も効力があつて尿の濁りなど非常に早くよくとれるから病氣の方は夫婦協力して早く治療されるやう御すゝめします。ゴノモトは全國の一流藥局にありますが發賣元東京市下谷區御徒町三ノ九〇東邦藥業へ申込めば親切に回答してくれます。藥代は大箱[illegible]小箱[illegible]元へ注文すれば[illegible]してくれます

時局小說（禁上演映畫化）

驀進

士別一樹 作　北野傳 畫

第百三十四回 銀座（一）

「でもわたし自分で判つきりしたことを聞かないと安心出來ませんの」

「そりやさうよ、ぢやこれからでも二人で行つて見ませうか」

「えゝありがと、でも明日にするわ。今日は何だか心が落付かないのよ」

順子には嬉しいのか悲しいのか判つきり自分の心が判らない程昂奮してゐた。

四人の心は何となく彈いで、賑やかであつた。

「ね、わたし久し振りで映畫が見たいんですけど皆さん連れてつて下さらない？」

順子は不意にこんなことをいひ出して、三人を面喰らはした。

「素敵だわ、素敵だわ」

先づ好枝が叫ぶと、徹吉もすぐ續いて

「僕も久し振りに觀たい氣がしますね」

と云つた。

「ね、兄さんはどう？」

「うん、僕だつて映畫位鑑賞出來るさ」

「ぢや行きませうよ、私、グレート・ワルツが見たいの、好枝さんは何時か雜誌に出てゐたあの映畫よ」

「あゝあれが――何處でやつてゐるんですの」

好枝は、ずつと以前婦人雜誌で讀んだ映畫を思ひ出した。

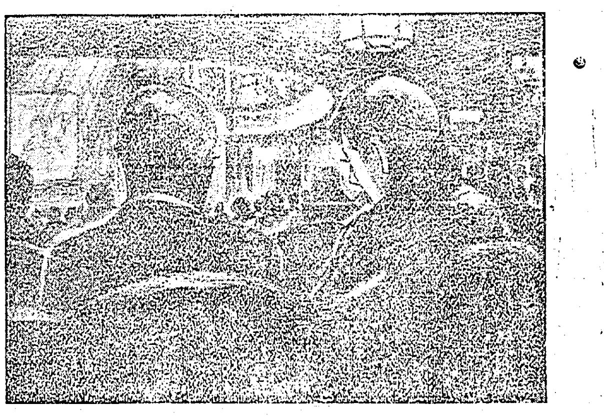
あの頃は映畫一つ觀ることもしない二人であつた、そして屢々見逃してゐたものであつたが、時々口惜しく思つては、見たいなと話合つてゐた映畫であつた。

「銀座キネマよ」

「ぢやこれから直ぐに行かう」

四人は[illegible]りをすると[illegible]通りへ出て、新橋行のバスに乗つた。

[illegible]にも好枝にも、[illegible]を見に行かうなどといひ出し[illegible]の時間が來るのであつた。



いや順子自身もそれに氣がついて、多少恥しく感じてゐるのであるが湧き上つてくる嬉しい氣持は抑へることが出來なかつた。

四人はバスに揺られながら黙つて銘々のことを考へてゐた、黙つてゐてもお互は充分話題を感じてゐるのであつた。

銀座でバスを降りると四人は[illegible]やうな人々の流れの中へ入つた。銀座の街を美しく着飾つた、といふ程でもないが、さう見える程に洗練された若い男女がゾロ〳〵と歩いてゐるのを身近く眺めると浩は、どうも一寸勝手の違つた感じがした。

「兄さん、どう？銀ブラも偶には惡くないでせう」

順子が、小さな聲で兄をからかふやうに見上げた。

「さうだな、僕には好いんだか惡いんだか一寸判らないね」

「ボーッとしちやつて？」

好枝がすかさず一矢入れた。

「どうも敵はんな」

男達は顔を見合せて苦笑した。

順子は四枚切符を買ふと先に立つて中へ入り、適當な席に陣をとつた。

夜の部にはまだ時間がある故か割合に空いてゐた。

丁度〃世紀の樂園〃が初まつたばかりのところであつた。

「まア、いゝわねえ、アリス、フエイよ」

好枝が小さな聲で囁いた、彼女は柄にもなく、自分で云ふ洋畫ファンで、俳優の名など好く知つてゐた。

快よい音樂の伴奏につれて畫面は次第に人々を夢幻境へまき込んでゆく。

只一人浩だけが、あんまり興味のしないやうな顔で、時々畫面から眼を離しては、感心したやうに周圍の人々の顔を眺めるのである。

薄暗い中に浩はふと由紀子に似たやうな姿を發見した。

洋品物は！
平市田町
玉屋
電六五六

提灯と國旗

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下 電話六七四番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

メガネ專門の店
メガネは絶對信用ある當店に
先づ御相談下さい…………
玉屋
平市本町二丁目

是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四 電話六〇六番

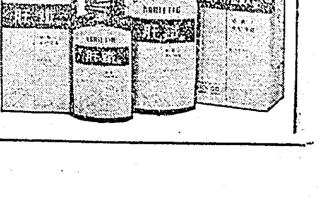
病室增築、手術室完備
醫學博士
產科婦人科 五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

株式先高必至
現物の買時
優良株御案内申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券賣物問屋
富岡株式店
平市四丁目（電話一九一番）

產科婦人科專門
根本醫院
平市南町
（入院隨時）
【電話 三四番】

春！花の春
（とんかつ專門の店）
興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します。
平市仲田町（電話四六五）
かの家
營業時間 自 午前十一時 至 午後十一時

醱酵母さまに
榮養と食慾增進劑
肝鐵
一百四十日分 八、五〇〇
一ヶ月分 二、二〇〇
十五日分 一、二〇〇
肝鐵は……榮養劑として牛の臟器より製造したものでありますが……胃の惡い人……便通の不整な人に……從來の……酵母や胃腸藥に比較して……御話にならぬ程……よくきゝます……ふとらぬ……と云ふ事は一、二ヶ月もせぬと現はれにくいものですが……立處に實に…ハツキリと…胃腸にきく……と云ふ事は何と云つても肝鐵の大きな强みで……試みに服用して頂いて他の榮養劑の樣に……きゝめのわからぬ……と云ふ御叱りは…絶對にありません



阿康推選品
效能
胃カタル・消化不良・各病食慾不振・黄疸・膽石・膵臓炎・神經衰弱・性慾減退・乳汁分泌不足・脚氣・綜合ビタミン缺乏症・新陳代謝障礙・夜盲性・小兒ノ發育不良・榮養不良・消化不良等ニ惡性貧血・結核性貧血・内外婦人科出血後ノ貧血及急性慢性疾患・即チ呼吸器・血行器・傳染病等ニヨル貧血症・諸ノ增血劑トシテ治療ノ機轉ヲ速カナラシム又過度ノ疲勞後、重病回復期、早老防止等ニ卓效アリ
平市古鍛冶町（縣社石段下）
專賣所 アコー藥局
電話三四四番
振替東京三〇〇六五番

「旨い」と一言にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
平市仲田町
日本料理 山茶莊
電五二〇

內臟外科
レントゲン科
泌尿器科
北川外科
入院隨意
平市新川町（電話四六四番）
醫學博士 北川芳夫

御婚禮御着附
パーマネントウエーブ
和洋結髮
オゾン美顔術
御染港洗毛
御爪美術
◎御婚禮用の〃かつら〃も御座います。
平市驛前
水野化粧院
電話六七八（營業所）五二五（自宅）